



12月号

はなまる



町の賑わいや装飾が年の瀬を感じさせます。だんだんと北風が身にしみるようになってきましたが、落ち葉と一緒に風のなかを駆け回る子どもは、やっぱり風の子です。戸外遊び・散歩を積極的に行ってまいりたいと思います。



11月の畑仕事報告



小松菜大きくなったかな



小松菜収穫



さつまいも洗い



チューリップ植え



11月の活動報告



焚き火



外で宿題中



青空おやつ



あったかおやつ



秘密基地作り



「遠くまで見えるかな」

点検報告



- ✓11月15日に避難訓練を、25日に不審者侵入訓練、衛生管理点検を実施しました。
- ✓12月23日に防災自主点検／備蓄品点検／衛生管理点検を行う予定です



小学生の約3割 1カ月に16冊以上読書

読書週間（10月27日～11月9日）の中、小学生の約3割が1カ月に16冊以上の本を読んでいることが、ニフティが運営する子供向けサイト「ニフティキッズ」がこのほど実施した読書に関するアンケートの結果で分かった。対照的に1カ月に3冊以下しか読まない中学生が5割近くもおり、小中学生で極端な結果となった。アンケートは9月2～26日に、小中学生を中心とする同サイトへの訪問者に対してインターネットを通じて行われ、1565人から有効回答を得た。

漫画や教科書以外で1カ月に読む本の量は、小学生では「16冊以上」が31%で最多。続いて「2～3冊」（18%）、「4～5冊」（17%）、「6～10冊」（16%）、「11～15冊」（8%）で、「6冊以上」は計55%となった。

一方、中学生では「2～3冊」が29%で最多。続いて「0～1冊」（18%）、「4～5冊」「16冊以上」（各17%）で、「5冊以下」は計64%となった。また、「全く読まない」は小中それぞれ3%だった。（2022年11月10日教育新聞より抜粋）

読書でしか身につかないスキルとは何か？

いま、日本人の「活字離れ」が叫ばれる一方で、私たちはスマートフォンやインターネットなどの活字にはどっぷりと浸かっています。スマートフォンやインターネットで情報を大量に集めるスキルがあっても、読書をしている人が集めてくる情報の質にはかなわないことがわかりました（2014年12月10日 NHK「クローズアップ現代」調べ）。

- 多くの言葉を知り、使える言葉が増えて論理的な文章のコツが身に付くため、分かりやすく説得力ある文章が書けるようになる
 - 漢字や文法に詳しくなる、知恵が増える
 - 本の内容を疑似体験したような状態になることで、想像力が鍛えられる
 - 関心や興味の幅が広がり、新しい世界へ踏み出すきっかけになる
 - 新たな発見を得て視野が広がり、今後役に立つ情報を得る
 - 考える力がつく。自分の中に蓄積された知識がアイデアとしても活かされる
- 読書にはこのようなメリットがあります。